

**進捗状況の概要** 【1ページ以内】

本事業は、「中南米諸国で取り組むべき地球規模の課題を解決するために、東京外国語大学、東京農工大学及び電気通信大学の3大学が連携して実践型グローバル人材を養成すること」を目的とし、採択初年度の平成27年度及び平成28年度において以下のとおり事業を推進した。

事業開始の平成27年度には、各大学のプログラム実行委員会、**3大学実行委員会の開催やコーディネーター間の密な連携体制**を構築し、円滑なプログラム運営や各大学の責任や役割分担の明確化を図った。

【プログラム内容】は、派遣・受入とも①**3大学合同での事前教育（短期型は1週間、中期型は4週間）**②各大学でのラボワーク、コースワーク、フィールドワーク③**インターンシップ**④**3大学合同での留学成果報告会と体系的になっており、学生への教育効果が最大限になるよう計画している。**

この計画に基づき、**短期型（約4週間）の異分野交流プログラム**の実施に向け準備を進め、平成28年1月及び2月に約1か月の短期プログラムを実施した。

平成28年度には、平成27年度に整備した環境と実績を基盤に、**単位修得を目的とした中期型（約6か月～1年）の地域理解プログラム**において、学生の派遣・受入を実施した。

連携先大学及び担当教員との緊密な連携を通じた学生への広報の結果、平成27年度及び平成28年度とも、**派遣・受入ともに計画を上回る数の学生がプログラムに参加した。**

【学生の派遣】にあたっては、**3大学協働で①スペイン語/ポルトガル語②課題解決型ワークショップ③中南米の社会・経済④科学リテラシー⑤危機管理セミナーなどの事前教育を行い、留学に対する目的を明確にすることができた。**この事前教育を3大学協働で実施することにより、**3大学の学生間の連携や異分野交流が促進され、3大学の学生で構成するユニットであるトリプレットの効果を課題ごとに把握することができた。**

危機管理セミナーでは、**3大学のコーディネーターが協働し、中南米でよくある犯罪事例についてロールプレイを取り入れた結果、実際に強盗被害にあった学生が冷静に対応できるなどの効果があった。**

【学生の受入】にあたっては、**短期型の学生には1週間、中期型の学生には1か月間の日本語・日本事情教育を3大学の学生合同で実施した。**日本語の基本的な運用能力を獲得し、ロンドン大学東洋アフリカ研究学院（SOAS）からの特別招へい教員の英語による日本関連講義や校外学習を通じて**日本文化へのより深い理解を促進するとともに、学生間の交流を深めることができた。**本教育プログラムは**質保証のため、単位認定のシステムを整備し、所定の成績を修めた中期型の学生には4単位を付与した。**

【派遣学生の海外でのインターンシップ】においては、派遣先大学の尽力や在中南米の日本商工会議所等との連携により、安全に最大限配慮した受入先が開拓され、中期型の派遣学生全員が日系企業、現地企業、NGO、研究機関等において2週間から3か月程度のインターンシップを実施した。

【受入学生の日本国内でのインターンシップ】においては、担当教員及びコーディネーターが協力企業・機関と協働してインターンシッププログラムを作成し、企業、研究機関、官公庁などで2週間から1か月のインターンシップを実施した。

これら教育プログラムの成果発表の場として、**3大学合同の派遣学生留学成果報告会及び受入学生中間・修了報告会**をそれぞれ開催し、トリプレットの効果を把握した。

これらの取組を通じて、幅広い国際的な視野を持ちながら中南米が直面する課題を解決する能力を備える人材育成を着実に実施し、その内容はキックオフ・シンポジウムやWebなどを通して広く発信している。

**【本事業における中間評価までの交流学生数の計画と実績】**

平成27年度				平成28年度			
派遣		受入		派遣		受入	
計画※	実績	計画※	実績	計画※	実績	計画※	実績
10人	12人	10人	11人	25人	28人	25人	27人

※海外相手大学を追加している場合は、追加による交流学生数の増加分を含んでいる。

**特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ以内】**

本事業の目的を達成するため、平成27年度に、各大学のプログラム実行委員会、3大学実行委員会の開催やコーディネーター間の密な連携体制を整備し、円滑なプログラム運営や各大学の責任や役割分担の明確化を図ったほか、平成28年2月19日には、中南米の協定大学の関係者などを招へいし、**世界展開力強化事業（中南米）キックオフ・シンポジウム**を開催した。このシンポジウムでは国内外の関係者にプログラム内容を周知するとともに、プログラム参加（予定）学生への動機付け及び意識を高めることができた。

**【3大学協働】**

**3大学が協働してプログラムを作成**することで、3大学間の連携が強化されるとともに、日本語・日本事情に関する教育を東外大が、専門教育を各大学が担当するなど、**効率的・効果的なプログラム運営**を推進した。なお、東外大の協定校であるメキシコ国立自治大学（UNAM）訪問の際、電通大の担当者が同行することにより、UNAMと電通大の新規協定締結が実現するなど、**協働による具体的な成果を共有**した。

**【受入学生の事前教育】**

受入学生が来日直後に受講する**日本語・日本事情教育プログラム**では、**日本語の基本的な運用能力を獲得し、ロンドン大学東洋アフリカ研究学院（SOAS）からの特別招へい教員の英語による日本関連講義や校外学習を通じて日本文化へのより深い理解を促進**するとともに、3大学の学生間の交流を深めることができた。この教育プログラムでは、各大学における円滑な研究活動の支援となったほか、**継続的な日本語学習への意欲を喚起**するなど、外国人留学生の教育研究環境づくりに貢献した。校外学習においては、防災館訪問などにより、日本における防災の取組、災害発生時の行動や救急救命法などを学び、来日後早い段階で充実した防災教育を実施できた。**本教育プログラムは質保証のため、単位認定のシステムを整備し、所定の成績を修めた中期型の学生には4単位を付与した。**

**【派遣学生の事前教育】**

派遣前に3大学協働で**①スペイン語/ポルトガル語②課題解決型ワークショップ（中南米の抱える課題について分析し、自分の研究がその課題の解決にどのように貢献できるかを検討）③中南米の社会・経済④科学リテラシー⑤危機管理セミナーなどの事前教育を実施**することによって、**留学の目的を明確にすることができた。**この教育プログラムを3大学協働で実施することにより、**3大学の学生間の連携や異分野交流が促進**され、3大学の学生で構成するユニットである**トリプレットの効果を課題ごとに把握**することができた。危機管理セミナーでは3大学のコーディネーターが協働し、中南米でよくある犯罪事例について、**学生参加による寸劇形式のロールプレイ**を取り入れた結果、実際に強盗被害にあった学生が冷静に対応できるなどの効果があった。

**【海外でのインターンシップ】**

実施にあたって、担当教員及びコーディネーターが中南米のインターン受入先の企業を実際に訪問して協議する、在中南米の日本商工会議所と連携するなどして綿密に調整することにより、**治安等の安全面を含む受入環境が整備され、インターンの役割・目的が明確なインターンシップが実施**できた。

**【日本国内でのインターンシップ】**

国内でのインターンシップ実施に先立ち、在中南米日本国大使館の大使経験者である特任教授が、**中南米と日本の企業文化の違いについてレクチャーを実施し、文化的摩擦によるトラブルを防ぐ役割を果たした。**また、インターンシップ実施後のフォローアップアンケートや対面での意見交換を実施することにより、国内受入先の詳細な感想や要望を知ることができ、次年度に向けたプログラム改善につながった。**国内インターンシップ受入先の多くは当該学生の取り組みや、留学生受入による社内の活性化について高く評価しており、ほとんどの企業で「来年度も継続して受け入れたい」との要望があった。**

**【3大学協働による報告会】**

受入学生の間・修了報告会、派遣学生の留学成果報告会も3大学協働で開催した事により、各大学それぞれの特徴的な取り組みについて相互に学び合うことや、3大学協働での教育成果及びトリプレットの効果を確認することができた。

また、3大学協働で大学・学科を越えて異分野交流を深めることを目的に合宿コロキウムを実施し、その中で**派遣学生が文理協働で留学成果報告を行うことにより、関係者のみならず多くの学生に対しても本事業における成果を発信することができた。**